

品目分類：エンドウ，技術分類：栽培技術

スナップエンドウ 4～5月どり作型の播種期		情報分類	普及情報
〔要約〕年平均気温17～18℃の地帯におけるスナップエンドウの4～5月どり作型の播種適期は11月下旬～12月上旬である。			
園芸作物部野菜研究室研究室		連絡先	099-245-1125
普及対象地域等	年平均気温17～18℃の地帯	普及見込面積等	20ha

〔背景・ねらい〕

スナップエンドウは近年，需要の拡大に伴い，生産量が増加しており，本県が生産量，生産額ともに全国1位となっている。主に無霜地帯の露地で栽培され，11～4月に収穫しているが，消費地からは11～5月の出荷が求められており，本県の出荷量が少ない4～5月の生産が課題となっている。そこで，現在の産地より冷涼な地帯で4～5月に収穫する新たな作型を開発するため，播種期を検討する。

〔成果の内容・特徴〕

- 1 開花が始まるまでの植物体は耐寒性があるため，11月下旬以降に播種すると，低温による心止まりが少ない（表1）。
- 2 11月下旬～12月上旬に播種すると，2月下旬～3月中旬に開花が始まり，3月下旬～4月上旬に収穫が始まる（表2）。
- 3 11月下旬～12月上旬播種が最も多収となり，1,500kg/10a以上の収量が得られる（図1）。
- 4 この作型は単価が680円の時，約40万円/10aの農業所得が期待できる（表3）。

〔成果の活用面・留意点〕

- 1 普及対象地域は年平均気温17～18℃で，極温が－4℃以下にならない地帯とする。－4℃以下では株が枯死するので栽培には不適である。
- 2 栽植様式は畝幅150cm，植穴間15cm，1穴2株植えとし，施肥量は秋まき冬どり作型に準ずる。
- 3 草勢を保つため，収穫遅れに留意する。
- 4 開花期以降は白ぶくれ症対策としてアザミウマ類の防除を，ごま症対策としてうどんこ病および褐紋病の防除を定期的（7～10日間隔）に行う。

[具体的なデータ]

表1 降霜による心止まり株率 (%)

播種期	H25	H26
11月 5日	55.0	27.1
11月15日	40.0	31.3
11月25日	20.0	2.1
12月 5日	5.0	4.2
12月15日	0.0	14.6
12月25日	0.0	6.3

表2 開花期および収穫開始期 (月/日)

播種期	開花期		収穫開始期	
	H25	H26	H25	H26
11月 5日	1/31	2/1	3/17	2/27
11月15日	2/12	2/16	3/20	3/20
11月25日	2/24	3/1	3/31	3/27
12月 5日	3/4	3/12	4/4	3/30
12月15日	3/12	3/18	4/7	4/3
12月25日	3/19	3/20	4/14	4/3

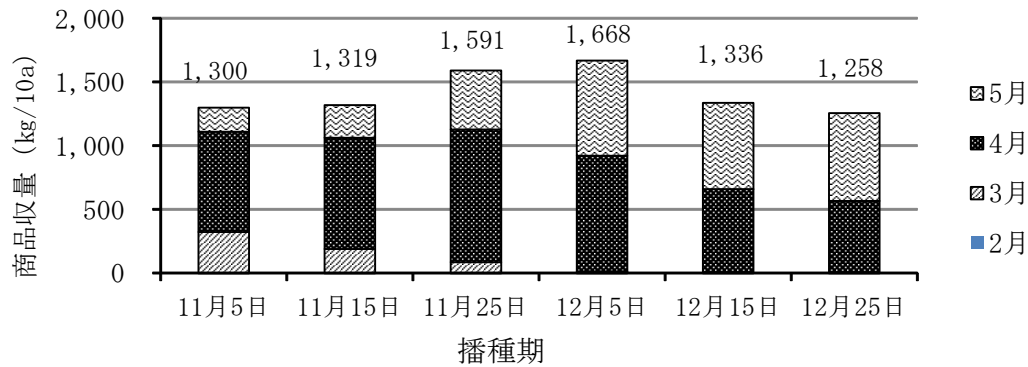


図1 播種期別の商品収量 (H26年度)

表3 4～5月どり作型の粗収益, 農業経営費および農業所得の試算

播種期	商品収量 (kg/10a)	平均単価 (円/kg)	粗収益 (円/10a)	農業経営費 (円/10a)	農業所得 (円/10a)
11月25日	1,591	683	1,087,506	718,470	369,036
12月5日	1,668	682	1,136,937	731,671	405,266

注1) 粗収益: 1kg当たり単価; L・M1,000円, がく枯れ900円, B300円から試算 (県経済連調べ)

2) 農業経営費は農業経営管理指導指標(平成23年3月)を活用

[その他]

研究課題名: 需要拡大に対応したスナップエンドウの作期拡大および品質向上技術の確立

予算区分: 県単

研究期間: 平成27年度 (平成24~26年度)

発表論文等: 平成27年度 九州農業研究発表会口頭発表

平成24~26年度 農業開発総合センター野菜試験成績書 (秋冬作)